

松井利夫さんのこと

絶句する、という言葉は知っていても経験は少ない。大きく報道もされた松井利夫さん(77歳)の高額寄附のお申し出には本当に驚かされました。その金額にだけではありません。

松井さんは当市五十沢地区出身で、六日町高校を卒業後、まさに裸一貫で起業し、その技術者派遣会社である株式会社アルプス技研を東証1部上場の企業にまで育て上げ、現在は創業者最高顧問を務められています。国内外に29拠点、年商約363億円、従業員は5千人を超えています。(令和元年12月末現在)

「社会に出て60年、故郷に貢献したい」という松井さんの思いを受けて、コロナ禍の下、細心の注意を払って私が本社を表敬訪問したのが8月末。松井さんに初めてお会いし、そのお人柄に心を打たれた。松井さんは「若い起業家が出なければ地域の産業復興、経済活性化はできない。人づくりだよ」と、故郷への思いや公益財団法人を設立し起業をめざす若者に奨学金を出してきた経験を、熱を込めて語られました。引き込まれた。

寄附をするだけでなく、「経験

のすべてを教えるつもりで、力を貸す。一緒にやろう」と。成功事例の筆頭に、多くの人材を輩出し、地域が変わっていった北海道十勝地域での支援事業が挙げられる。実際の起業や経営の難しさを、松井さんや財団が指導し実現させる。ここが「一緒にやる」のゆえん。私も真剣に地域課題や夢を話しました。

帰り際に松井さんから、当市に1億円を寄附することを明言され、驚いた。それから半月も経たないころ、再び松井さんから連絡があり、「コロナ後の働き方改革の先頭を行く。自然豊かな南魚沼を新たな働き方を提唱する街として、都会の一極集中ではない『リゾートオフィス』の構想を立てて取り組んだらどうか?」その事業のために2億円を増額して寄附したいという。

松井さんの夢と私たちの思いが一致した結果だが、喜びを超えて今は緊張感の方が大きい。多くの知見や情熱を集めて、後世に語り継がれるような事業を展開したい。

国際大学留学生 お国自慢コーナー ~ boast of my country ~

シリーズ
第90回

キルギス共和国 オルムシェバ メエリム さん



私の国はこんなところ

キルギス共和国は、国土の約40%が標高3kmを超える山国で、独特な地形をしています。中国との国境にはティエンシャン山脈が延び、南には平均標高5kmに達するパミール高原が広がっています。雄大な山々には美しい湖が点在し、その水は透き通っており、中でもイシク・クル湖は有名です。キルギスを訪れる人びとは、独特な自然の地形や心のこもったおもてなし、伝統料理の数々に魅了されます。これらは、母国を離れたキルギスの人びとにとっても魅力です。私は、この国の美しい自然やきれいな水、快適な気候、そして親切な国民性を誇りに思っています。



キルギス共和国

[公用語] キルギス語、ロシア語
[首都] ビシュケク
[面積] 198,500km² (84位)
[人口] 6,200,000人 (110位)
[GDP(PPP)] 191.6億ドル (139位)
[通貨] ソム (KGS)

※GDPは国内総生産のことで、購買力平価説(PPP)により算出した数値です

南魚沼市に住んで感じたこと

日本は豊かな文化と古代からの歴史がある、最も神秘的な国ではないかと思えます。世界中の人びとが訪れたいと思い、すでに訪れて好きになった人もたくさんいると思います。私は南魚沼市での生活を経験でき、幸運でした。南魚沼市は自然、伝統文化の精神に満ちた行事、お寺、美術館などすべてが美しく、地域の人びとは親切で親しみやすく、すぐにここが好きになりました。美しい自然、安穩、すべての調和を愛する人びとが集まるすばらしい地域です。